

大山グリーンと高津ブルー
暮らしと共にある美しい水

山陰に、日本に誇る名水地があることを知っているだろうか？

中国地方最高峰・大山から湧き出る豊かな水は、古くは延命の水「利生水」として各地から参拝者を集め、今ではミネラルウォーターとして広く知られている。その秘密は、裾野へ広がる雄大なブナの森。天然のダムと呼ばれるブナの森は地下に大量の水を溜めこみ、土壌で濾過された地下水が水脈になる。

原生状態に近い森林が残る大山を歩けば、自然界の緑の鮮やかさに驚かされるだろう。大山は山岳信仰の聖地として、1889年まで一般入山が禁じられ、木一本すら許可なく切ることは許されなかった。国立公園となった現在もその自然環境は保護され、美しい水を裾野へ運んでいる。

島根県西部を流れる高津川は、国土交通省の調査で7回も水質日本一に選ばれた清流だ。とはいえ、高津川は人里離れた秘境の川ではない。水源から河口まで人の暮らしのそばにある、日本一美しい近所の川だ。

高津川の保護利用に関わる齋藤義徳さんは「人里がある中流域の水質が、水源地よりきれいな川は珍しい」と言う。それは、この地域に川や自然の恵みを大切にする暮らしが残っている証拠でもある。美しい深い青をたたえる高津川は天然の鮎を育て、庭先に豊かな生活水運び、夏には子どもたちのプールになる。

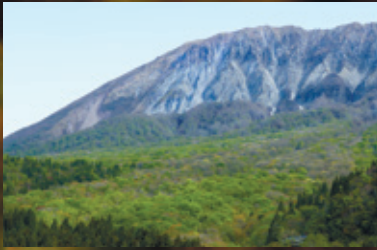
大山と高津川、山陰が誇る名水は手付かずの自然の副産物ではない。自然への信仰と親しみが息づく暮らしの中で、人の手で守られてきた美しさだ。ユネスコの発表によれば、2050年には世界人口の半分が水不足に直面する可能性があるという。水資源の問題に直面する現代社会の中で、この地の暮らしと共にある美しい水は、特別な意味をもっている。

守り継ぐ一滴。



島根県 高津川

国土交通省の調査で7度の「水質日本一」に認定。樹齢1000年を超えると言われる杉のふもと「大蛇ヶ池」が水源。源流の吉賀町六日市から河口の益田市を経て日本海に注ぐ。本流にダムがない日本で唯一の一級河川で、天然の鮎や川ガニ、河口でとれるハマグリは名産。



鳥取県 大山

標高1,729mの中国地方最高峰大山。山岳信仰の聖地として人の立ち入りが制限されてきた歴史を持ち、現在も自然保護活動のボランティアが続けられている。西日本最大級のブナ林を擁する大山の湧き水は古くから名水として知られ、そばや豆腐など水を生かした食文化も育んだ。

撮影地：高津川源流の大蛇ヶ池



中国電力

— あなたとともに、地球とともに —